

英語教育におけるログの活用と効果について

入江 伸光

1 はじめに

前勤務校であった甲南大学で、初めて1回生のリスニング・クラスを担当したとき、半期（13-14週間）に週一度の90分授業を受講するだけで学生たちが飛躍的なリスニング力をつけることは困難であると考えた。そこで、学生たちが授業以外でも英語を聞く習慣をつけてもらう目的でListening Logをアサイメントとして出すことにした。学生たちの多くはコースの最後に、Logをすることで確かにリスニング力がついたと感じた。また、英語を楽しく勉強できるようになったとのフィードバックも多く聞かれた。コースの最初と最後に同じリスニングのテスト（Pre-test, Post-test）を行うことで、彼らのリスニング力がどれだけついたかを具体的な数字で表したいと思う。すべてのクラスでスコアの上昇が見られると予想するが、クラスの4つのレベル（Upper, Regular, Lower, Sports Class）でスコアの上昇率が異なると予想する。さらに、現在、勤務している立命館大学の学生たちのスコアと比較し、上昇率に違いがあるのかを調べる。

2 リスニング・ログとは？

毎週、合計一時間、英語でテレビのニュース、英会話番組、ドラマ、映画を見たり、またラジオの英語番組やCDの音楽を聞いたりして、その内容について報告する。最初は自分のレベルに合ったものから始め、徐々にレベルアップを目指す。一つ一つの単語を聞き取る練習（Dictation）だけでなく、推測（Guess）しながら全体の意味を理解する練習も行う。

3 ルールと記入方法（記入用紙は資料を参考）

- 【1】 1週間に3日、合計最低60分必要。それ以下は減点。1枚の用紙に1週間分。
- 【2】 一週間に同じことをすると減点になる。（映画や音楽ばかり使うのはよくない。特に同じアーティストの曲ばかりを使わないように。）
- 【3】 Title：映画の名前。番組の名前とその日のレッスンまたはタイトル。音楽の曲名。インターネットなら、利用したホームページのアドレス、タイトルを書く。
- 【4】 Who：出演者（女優、俳優など）の名前、歌手の名前、司会者や番組を進行している人の名前、など…

- 【5】 Dictation：聞いたところを書き出したかどうか、Yes か No に○をつける。
- 【6】 Summary：英語か日本語で、聞いた内容の要点を自分の言葉で書く。できるだけ詳しく。感想ではなく、あらすじを書くこと。4 行以上で
- 【7】 2 週間のうち 1 回は必ず Dictation をして、用紙の裏に書き出すこと。用紙の全体を使用するように（最低半分以上）。赤ペンで訂正して提出すること。
- 【8】 Comment：1 週間でいった Listening についての感想を書く。自分がどのようなことを学んだか、または上達したかを書く。自分の問題点、改善したい点なども書く。必ず書くこと。短すぎると減点。4 行以上必要。

良い例：CD で音楽を聞いて Dictation するのはかなりできるようになってきたと思う。ラジオで会話を聞くのは簡単だった。ニュースを英語で聞くのはさっぱりだった。L と R の音の違いがまだよく聞き取れない。毎日少しずつ英語に触れるのは大切だとよくわかってきた。

悪い例：難しかった。来週はもっとがんばりたい。

- 【9】 締切日に必ず提出すること、遅れた場合は減点になるので注意すること。1 週間以上遅れると 0 点！
- 【10】 評価：
 - A 一上に述べたことをちゃんとしている場合。
 - B 一回数、時間的にやっても、情報がすべて書けていないもの。聞いているものが片寄っている場合。情報が書けていても、時間が少し足りないもの。字がきたなくてはつきり読めないもの。
 - C 一回数、時間的にかなり足らないもの。上に書いた条件をほとんど満たしていない場合。

4 対象者

4.1 甲南大学

2006 年から 2010 年までの Lower, Regular, Upper の全 28 クラス
人数は Pre テストと Post テストの両方を受けた学生の数。

2006 年

Lower（レベル 14）経営学部 19 名, Lower（レベル 14）経済学部 22 名
 Regular（レベル 10）経営学部 19 名, Regular（レベル 10）経営学部 24 名
 Regular（レベル 8）理工学部 17 名, Regular（レベル 7）経営学部 16 名
 Regular（レベル 7）経済学部 22 名, Upper（レベル 3）経済学部 23 名
 Upper（レベル 1）文学部 27 名, Upper（レベル 3）経営学部 25 名
 Upper（レベル 4）理工学部 19 名, Upper（レベル 5）文学部 28 名

2007 年

Lower（レベル 14）経営学部 23 名, Lower（レベル 14）経済学部 19 名
 Regular（レベル 10）経営学部 18 名, Regular（レベル 10）経済学部 22 名
 Regular（レベル 8）理工学部 16 名, Regular（レベル 7）経営学部 20 名
 Regular（レベル 7）経済学部 22 名, Upper（レベル 4）理工学部 24 名
 Upper（レベル 3）経営学部 20 名, Upper（レベル 3）経済学部 21 名

2008 年

Regular（レベル 7）経済学部 19 名, Upper（レベル 3）経済学部 19 名

2009 年

Regular（レベル 6）経営学部 19 名, Upper（レベル 2）経営学部 21 名
 Upper（レベル 3）経済学部 23 名

2010 年

Upper（レベル 3）経済学部 24 名
 Lower（計 83 名）、Regular（計 234 名）、Upper（計 274 名） 総合計 591 名

4.2 甲南大学スポーツクラス

甲南大学はスポーツ推薦で入学した学生のために、英語のクラスを一般学生と別に設けている。数人の例外を除けば、英語のレベルは非常に低く、中学英語の知識を持たない学生も多見られた。それゆえ、ここでは一般学生のクラスとは別に結果を提示する。

2009 年 スポーツクラス 19 名、2010 年スポーツクラス 20 名 計 39 名

4.3 立命館大学

2011 年から 2012 年、文学部の 4 クラス。文学部ではレベルの低い順からアルファベットでクラス名をつけて、A と B、2 つの M レベル（Pre-Intermediate）のクラスは甲南大学の Lower レベルに相当すると思われる。

2011 年

AM クラス 16 名, BM クラス 24 名

2012 年

AM クラス 24 名, BM クラス 25 名 M レベル（Lower）（計 89 名）

5 Pre-test と Post-test

これらのテストは同一のもので、3 つのセクションから成っている：セクション 1（24 点）、セクション 2（50 点）、セクション 3（26 点）の合計 100 点。

セクション 1：英語の音を聞いて区別できるかを確かめる問題。ネイティブ（アメリカ人）に 3 つの単語を読んでもらい、最初に読まれた語の横に数字の 1 を、2 番目に発音された語の横に 2 を最後に読まれた語には 3 を書くという形式。英語の母音、日本人が困難だといわれる子音「L」と「R」、語尾の「th」「ds」「z」などを出題。各 3 点で 8 問。

セクション 2：聞き取り問題。英語の文を聞いて空所に入る語を書く問題。各 2 点、25 問。

セクション 3：Comprehension 問題。短い会話文を聞いてその内容について尋ねられる質問に対する正しい答えを（A）から（D）より選ぶ問題。各 2 点で 13 問。

6 結果

Pre-sec1	Post1	Gain	Pre-sec2	Post2	Gain	Pre-sec3	Post3	Gain	Total Gain
甲南大学 Lower レベル (数字は平均点)									
16.9	18.8	1.9	20.6	28.1	7.5	8.9	11.6	2.7	12.1
甲南大学 Regular レベル									
17.6	19.8	2.2	23.8	32.6	8.8	10.7	12.9	2.2	13.2
甲南大学 Upper レベル									
17.9	19.6	1.7	26.2	34.9	8.7	11.2	13.6	2.4	12.8
甲南大学 スポーツクラス									
16.5	17.4	0.9	12.0	19.0	7.0	11.9	14.4	2.5	10.4
立命館大学 M レベル (Lower)									
16.7	18.6	1.9	18.9	25.7	6.8	9.1	10.8	1.7	10.4

各 Section と Total における Gain の総平均 (数字の単位は増えた点数)

Section 1	1.7
Section 2	7.8
Section 3	2.3
Total	11.8

Pre & Post test のセクションごとの Gain が多かった順位

<Section 1>

1. 甲南大学 Regular レベル
2. 甲南大学 Lower レベル と 立命館大学 M レベル
3. 甲南大学 Upper レベル
4. 甲南大学 スポーツクラス

<Section 2>

1. 甲南大学 Regular レベル
2. 甲南大学 Upper レベル
3. 甲南大学 Lower レベル
4. 甲南大学 スポーツクラス
5. 立命館大学 M レベル

<Section 3>

1. 甲南大学 Lower レベル
2. 甲南大学 スポーツクラス
3. 甲南大学 Upper レベル
4. 甲南大学 Regular レベル
5. 立命館大学 M レベル

<Total>

1. 甲南大学 Regular レベル
2. 甲南大学 Upper レベル
3. 甲南大学 Lower レベル
4. 甲南大学 スポーツクラス と 立命館大学 M レベル

7 発見と分析

最初にセクション別に見てみると、聞き取りのセクション2の Gain が一番多く、次に会話を聞いて理解力を試されるセクション3、次いで単語の発音の違いを区別するセクション1という順になった。発音の違いを上手に聞き取るには、リスニング以外にも授業の外で発音を自分で練習する必要があると考える。また、Log を10週間行うことで、英語を聞き取る力は Dictation には顕著に表れたが、会話の内容を把握する力を伸ばすにはもう少し英語を聞く時間が必要であると推測する。

レベル別に見ると、甲南大学のレギュラーレベルに一番 Gain が多く、次に甲南大学の Upper、そして同校の Lower という結果となった。しかし、その差は大きなものではない。Upper レベルより Regular レベルの Gain が多かったのは、すでにテストで高得点を出している Upper レベルの学生は、Regular レベルの学生たちほど顕著に Gain を出すのが困難であったと推測される。興味深いのは、スポーツクラスと立命館大学の M レベルが他の3つのレベルに比べて Gain が少なく、この2つのレベルが総合で全く同じ Gain になったことだ。これは、立命館大学の文学部の M レベルが甲南大学の Lower レベルと同じくらいであろうと予想していた私には意外な結果であった。

セクション別に見ると、立命館大学 M レベルがスポーツクラスよりも Gain が少なく、セクション2と3で最下位になった。この理由について考えるときに、モチベーションが大きく関係しているのではないかと考える。というのは、教えた全てのクラスで立命館大学 M レベルの学生たちのモチベーションが一番低い印象を受けたからだ。特に AM のクラスは2011年も2012年も月曜日の1限目の授業で、学生の勉強のモチベーションを上げることに苦勞した。Listening Log の提出率も他のクラスに比べて低かった。

スポーツクラスのセクション3における Gain が Upper と Regular クラスよりも多かったことも興味深い。このクラスの特徴は他のクラスに比べてコミュニケーション力に優れていることだ。スポーツをしている学生たちはクラブ活動を通してチームメイトやコーチ達との会話を頻繁に行うので、英語の授業の中でもクラスメイトや教師にオープンに話せる学生が多かった。この要因がセクション3で Gain を伸ばす結果につながったのかもしれない。それは、最も静かで授業中にほとんどコミュニケーションを自発的にしなかった、立命館大学の M レベルの学生たちのセクション3での Gain が最も低いことから推測できるように思う。

8 まとめ

7 年間、Pre-test と Post-test を行い、データを調べた結果、すべてのレベルで Gain が見られた。その率は甲南大学の Regular レベルで最も高く、スポーツクラスと立命館大学 M レベル（Pre-Intermediate）で一番低かった。立命館大学（文学部）の M レベルは Gain において甲南大学のスポーツクラスと全く同じになるという興味深い結果を得た。この Log のアサイメントを始めたのは大学で教鞭を取り始めた約 20 年前からで、これを通して学生たちの英語力がつくことを体感してきた。最初は学生たちも毎週英語を 3 日に分けて合計 1 時間聞き、Dictation、要約、感想などを書いて報告することは、たいへん面倒で時間がかかる作業で嫌いだという者も多いが、最後には以下の例のように達成感を感じ、英語力がついたとコメントする人が多い。

ここで 2 つ、2012 年の立命館大学 M レベルの授業に対するフィードバックを記載する。

Student A 「英語がすごく苦手で、自分から英語をしようと思うことがなかったですが、課題（Listening Log）で洋画などに触れる機会が増えて、洋画もいいなと思うようになりました。これからも洋画をたくさん見て英語に触れる機会を増やしていこうと思いました。授業でたくさんリスニングをしたので、前よりも聞き取れるようになった気がします。英語のリスニングに自信ができました。課題を毎回しっかりやっていると、ちゃんと自分の力になっているんだと実感しました。」

Student B 「以前に比べてリスニング力がついたと思います。リスニングでもリーディングでも単語を知っていないと何もできないと思いました。もっと自分のボキャブラリーを増やすことで、よりリスニングも得意になれると思います。あんな

に嫌いで、いつも自分の勘でしか答えられなかったリスニングが、今では確信をもって答えられる問題ができたことをとてもうれしく思っています。最近は洋画を字幕で見るようにもなりました。以前では考えられません。ここまでするようになったのもこの授業があったからです。苦手意識をなくすことができました。」

このアサイメントは毎週、チェック、評価、フィードバックする教師側にとっても大変時間がかかり、容易なことではない。しかし、私はこの Listening Log を通して、学生の英語に対する姿勢と進歩を毎週見ることができ、何よりも学生とのコミュニケーションが取れたと感じている。Log のアサイメントは英語教育において効果的であると確信している。これからもこの Log を使用し、学生のニーズに合わせてアレンジし、進歩させていきたい。

添付資料

Listening Log __曜 __限 Name_____

__月__日__分(music, DVD, TV, radio, Internet, other _____)

Title_____ Who _____

Dictation (yes, no) Website: http://_____

Vocabulary _____ (意味 _____) _____ (意味 _____)

Summary (詳しく) 音楽の時は歌詞の要約

__月__日__分(music, DVD, TV, radio, Internet, other _____)

Title_____ Who _____

Dictation (yes, no) Website: http://_____

Vocabulary _____ (意味 _____) _____ (意味 _____)

Summary (詳しく) 音楽の時は歌詞の要約

__月__日__分(music, DVD, TV, radio, Internet, other _____)

Title_____ Who _____

Dictation (yes, no) Website: http://_____

Vocabulary _____ (意味 _____) _____ (意味 _____)

Summary (詳しく) 音楽の時は歌詞の要約

Comment:(Listening について学んだこと、問題点、改善点、次回への目標など..)

評価 : A (10 点) B+ (8 点) B (6 点) C+ (4 点) C (2 点)